

施策	5102 豊かな心及び健やかな体の育成						
区分	妥当性	妥当	コスト削減の余地	有	受益者負担	適正	
	上位貢献度	有効	類似事業の有無	無	成果向上の余地	有	
対象	市内小・中学生						
施策が目指す姿	道徳教育の充実、人権教育の推進、いじめ“0”（ゼロ）を目指した対策の推進、体力の向上、食育の推進等を図る。						
成果指標	不登校児数の出現率...平成29年度で1%未満 新体力テストの全国平均値に対する本市平均値...平成29年度で全国平均を上回る 児童生徒に対する食に関する指導回数...平成29年度で3,450回(現状値3,300回)						
目 標 達 成 状 況			平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	成果指標1 [%]	予定	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00
		実績	0.93	1.24	1.30		
	成果指標2 []	予定					
		実績					
		単位コスト					
	成果指標3 [回]	予定	600.00	3,300.00	3,350.00	3,400.00	3,450.00
		実績	3,194.00	4,547.00	5,302.00		
		単位コスト	477.28	429.09	266.32		
	成果指標4 []	予定					
		実績					
		単位コスト					
トータルコスト (千円)	予定	1,716,691	2,001,471	1,451,366			
	実績	1,524,431	1,951,073	1,412,036			
内 部 評 価	貢献度	上位基本施策の目標である「保護者の学校教育に対する満足度」の向上には、いじめゼロ対策や食育の推進などが必要であり、本単位施策の貢献度は高い。					
	達成状況	新体力テストの本市平均値と不登校出現率については、目標値に到達せず課題が残る結果となったが、食に関する指導回数については目標値を大幅に上回る結果となっている。					
	課題	新体力テストの全国平均値を下回っている小学生の体力を上げる取り組みの強化と、小学生の不登校出現率が上がっているため、各小学校及び教職員への指導等必要である。					
	取組方針	体力向上については、小学校体育主任研修会等で取り組みの充実を図る。不登校対策については、児童指導研修会等で不登校対応について意識の向上を図っていく。					
外 部 評 価	<p>昨年度の指摘と同様に不登校出現率の改善が見られていないことは遺憾である。特に家庭との連携やアプローチ方法について検討のうえ、具体的な取組みを進めること。体力テストは全国平均を下回っているものの、種目によっては改善も見られることから、引き続き結果の分析と対策を進めるべきである。食育の推進については目標を大きく上回り大いに評価できる。</p> <p>体力テストの成果指標について、学力テストの成果指標と同様に毎年度進捗を把握・管理できる指標を検討し、次期計画に反映すること。いじめや不登校については、家庭との連携を測れるような指標を検討されたい。給食費の設定については、保護者負担と市財政の負担のバランスをよく検討のうえ設定すべきである。</p>						
単 位 施 策 達 成 の た め の 事 務 事 業	事業コード	名 称				トータルコスト(千円)	達成度
	543201	学校給食事業費				939,159	100
	700501	学校給食食物アレルギー対応事業費				12,289	100
	723801	地域特産品学習事業費				16,697	100
	534201	適応指導教室運営事業費				22,738	91
	540101	小学校保健事務費				63,706	1
	540401	小学校健康診断事業費				29,505	1
	540501	中学校保健事務費				32,187	1
	540601	中学校健康診断事業費				13,847	1
	543301	学校給食調理業務民間委託費				281,908	1
543101	学校給食事務費				0	0	

平成27年度

単位 施策評価表 補表

施策	5102 豊かな心及び健やかな体の育成		
区分	妥当性	妥当	豊かな心と健やかな体の育成のため、必要な事業であり妥当である。
	コスト削減の余地	有	経常経費の削減が見込める。
	受益者負担	適正	受益者負担が必要なものは負担を求めており適正である。
	上位貢献度	有効	学校教育の充実のためには、児童生徒の心身の成長が不可欠であり有効である。
	類似事業の有無	無	類似の事業は無い。
	成果向上の余地	有	体力向上及び不登校児出現率に対する取組については、成果向上の余地がある。
内部評価	貢献度	いじめゼロによる心の安定や、体力の向上及び食育の推進により児童生徒の健全な成長が図られることから、上位基本施策の目標「保護者の学校教育に対する満足度」への貢献度は高い。	
	達成状況	食に関する指導回数については前年に引き続き目標を上回ることができたが、不登校児童の出現率は前年に続き増加となった。体力向上については、全国平均を下回ったが、対象の3種目の中で、50m走は全国平均を上回り、ソフトボールについては全国平均に近づく上向き傾向となり、立ち幅跳びについては下げ止まりを見せた。	
	課題	全国平均を下回っている小学生の体力向上の取り組みの強化について、授業の充実等の必要がある。不登校出現率の低下のため、不登校になる前に発見できるような取り組みと、家庭との連携が必要である。	
	取組方針	体力向上については各学校における取組の充実を促すとともに、体育主任研修会等での内容の検討を行う。不登校児数の出現率の増加については、不登校やいじめ等問題行動を未然に防止できるよう児童指導研修会等で教職員の意識向上を図るとともに、スクールソーシャルワーカーにより家庭の対応を行っていく。	

事

様式 1

栃木市事務事業評価表

平成 27 年度

会計	一般	款項目	100103	予算事業コード	534201	事業区分	01	政策的事業	新規 / その他	2	その他	基本施策		単位施策	
事業名	適応指導教室運営事業費										主	5102	学校教育の充実	豊かな心及び健やかな体の育成	
担当部課 係・担当チーム名	教育部 学校教育課 指導係						担当者	篠崎 智延		従					
事業の性質	2	自治事務	根拠法令等			事業期間	H16 ~ H29 年度		全体事業費 (人件費除)	228,000		千円			
事業の概要	(事業完了(事業期間のない事業は平成32年度)までに、誰(何)を、どういう方法で、どうしたいのか。対象、手段の記入) 不登校児童生徒及びその保護者に対する適応指導・支援や教育相談を行う適応指導教室「はばたき教室」「あじさい教室」「わたらせ教室」「すずかぜ教室」「コスモス教室」を整備・充実することにより、不登校児童生徒の学校への復帰率の向上を図り、不登校児童生徒の減少を目指す。 【主要事業】						達成目標	(事業完了(事業期間のない事業は平成32年度)の目標) 適応指導教室(5教室)を運営し、不登校児童生徒の減少を目指す。							
	成果目標	不登校児童数の出現率...平成29年度で1%未満 新体力テストの全国平均値に対する本市平均値...平成29年度で全国平均を上回る 児童生徒に対する食に関する指導回数...平成29年度で3,450回(現状値3,300回)													

単位：千円、人	平成26年度決算額	平成27年度決算見込	事業の内容		その成果	
国庫支出金		0	平成26年度		平成27年度	
県支出金		0	【内容】 不登校児童生徒及びその保護者に対する適応指導・支援や教育相談を行う。 ・適応指導員 13名の配置 ・適応指導支援指導員 4名の配置		【内容】 不登校児童生徒及びその保護者に対する適応指導・支援や教育相談を行う。 ・適応指導員 14名の配置 ・適応指導支援指導員 3名の配置	
地方債		0	【成果】 学校、保護者、その他の関係諸機関との連携を十分に図ることで、通級児童生徒への支援が充実した。		【成果】 学校、保護者、その他の関係諸機関との連携を十分に図ることができ、通級児童生徒への支援が充実した。	
その他特財		0				
一般財源		21,238				
事業費 a		21,238				
人件費 b	1,500	1,500				
減価償却費 c	0	0				
総事業費 a+b+c	1,500	22,738	指標名	算出方法	単位	事業の事後評価
結果指標 1	2,228.00	3,105.00	適応指導教室への来室・電話件数 + 学校、家庭訪問件数	教育相談件数 H27目標値:2000件	件	妥当性
結果指標 2	75.29	64.10	学校復帰率	学校復帰児童生徒数 ÷ 通級児童生徒数 × 100 H27目標値:70%	%	妥当
						コスト削減の余地
						受益者負担
						上位貢献度
						類似事業の有無
						成果向上の余地
						無
						適正
						有効
						無
						有

事業改善計画	(改善内容とその効果を具体的に記入) 不登校児童生徒及びその保護者に対する適応指導、支援や教育相談を実施した。今後さらに、学校の教職員やその他の関係諸機関との効果的な連携体制を構築し、不登校の予防や早期解消に向けた取組を積極的に推進していく必要がある。					
--------	---	--	--	--	--	--

事後評価備考	
--------	--

事

様式 1

栃木市事務事業評価表

平成 27 年度

会計	一般	款項目	100503	予算事業コード	543201	事業区分	01	政策的事業	新規/その他	2	その他	基本施策		単位施策			
事業名	学校給食事業費										主	5102	学校教育の充実	豊かな心及び健やかな体の育成			
担当部課 係・担当チーム名	教育部 保健給食課 学校給食係					担当者	中島茂晴					従					
事業の性質	2	自治事務	根拠法令等									事業期間	H18 ~ H29 年度		全体事業費 (人件費除)	9,000,000	千円
事業の概要	(事業完了(事業期間のない事業は平成32年度)までに、誰(何)を、どういう方法で、どうしたいのか。対象、手段の記入) 児童生徒の健全な育成に寄与するため、安全安心でおいしい給食を提供する。 併せて地産地消および食育の推進を行う。 【主要事業】										達成目標	(事業完了(事業期間のない事業は平成32年度)の目標) 安全で美味しい学校給食を安定供給する。 地産地消、食育の推進を行う。					
	成果目標	不登校児数の出現率...平成29年度で1%未満 新体力テストの全国平均値に対する本市平均値...平成29年度で全国平均を上回る 児童生徒に対する食に関する指導回数...平成29年度で3,450回(現状値3,300回)															

単位：千円、人	平成26年度決算額	平成27年度決算見込																		
事業費・指標の推移	国庫支出金	0	0	平成26年度						平成27年度										
	県支出金	0	0	安全で美味しい学校給食の安定供給・食に関する指導の充実及び安全管理、衛生管理の徹底。						【事業の内容】 ・安全で美味しい学校給食の安定供給・食に関する指導の充実及び安全管理、衛生管理の徹底。										
	地方債	0	0	(成果) 調理場への巡回により調理作業や衛生面の指導を行い、安全で安心な学校給食を供給した。						【成果】 ・調理場への巡回により調理作業や衛生面の指導を行った。										
	その他特財	672,047	665,000	各学校で食に関する全体指導計画を具体的にし、学年別に、教科、道徳、特別活動等の指導において、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を育んだ。						各学校で食に関する全体指導計画を具体的にし、学年別に、教科、道徳、特別活動等の指導において、子どもたちが食に関する正しい知識と望ましい食習慣を育んだ。										
	一般財源	152,220	137,659	事業の内容その成果																
	事業費 a	824,267	802,659	指標名	算出方法		単位	事業の事後評価	妥当性	コスト削減の余地	受益者負担	上位貢献度	類似事業の有無	成果向上の余地						
	人件費 b	128,250	136,500	地元食材使用率	年間地元食材使用日数 ÷ 年間給食実施日数 H27目標値 100%		%								妥当	無	適正	有効	無	有
	減価償却費 c	0	0	年間安定供給実施率	年間安定供給日数 ÷ 年間給食実施日数 H27目標値 100%		%													
	総事業費 a+b+c	952,517	939,159																	
	結果指標 1	100.00	100.00																	
結果指標 2	100.00	100.00																		

事業改善計画	(改善内容とその効果を具体的に記入)														
	安全で美味しい学校給食を安定的に供給した。地場産物を利用した献立により地産地消の推進し、「食に関する指導実践事例集」や「ちょこっと食通信」を活用し、各学校で食育に取り組んだ。														

事後評価備考															
--------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--